

2) 年齢階層

年齢階層の構成割合については、分析データにおいては一番多いのが 80 歳以上 85 歳未満は 25.0%であり、続いて 85 歳以上 90 歳未満 20.7%、75 歳以上 80 歳未満 20.5%であった。

全国データでは、85 歳以上 90 歳未満が 24.1%と一番多く、続いて 80 歳以上 85 歳未満 23.8%、75 歳以上 80 歳未満が 15.4%であった。やや、全国データのほうが年齢階層が高い傾向がみられた。これは、本研究のデータが経年的変化について 3 回のデータを持っている要介護高齢者を対象としたためと考えられた。

表 1-2 分析データと全国データにおける年齢階層の構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
40 歳以上 65 歳未満	2769	3.8	133.6	3.4
65 歳以上 70 歳未満	4831	6.6	171.7	4.3
70 歳以上 75 歳未満	9212	12.7	321.5	8.1
75 歳以上 80 歳未満	14896	20.5	611.8	15.4
80 歳以上 85 歳未満	18198	25.0	942.4	23.8
85 歳以上 90 歳未満	15013	20.7	954.8	24.1
90 歳以上 95 歳未満	6459	8.9	577.2	14.6
95 歳以上	1282	1.8	250.5	6.3
合計	72660	100.0	3963	100.0

※全国データの N 数の単位は千人

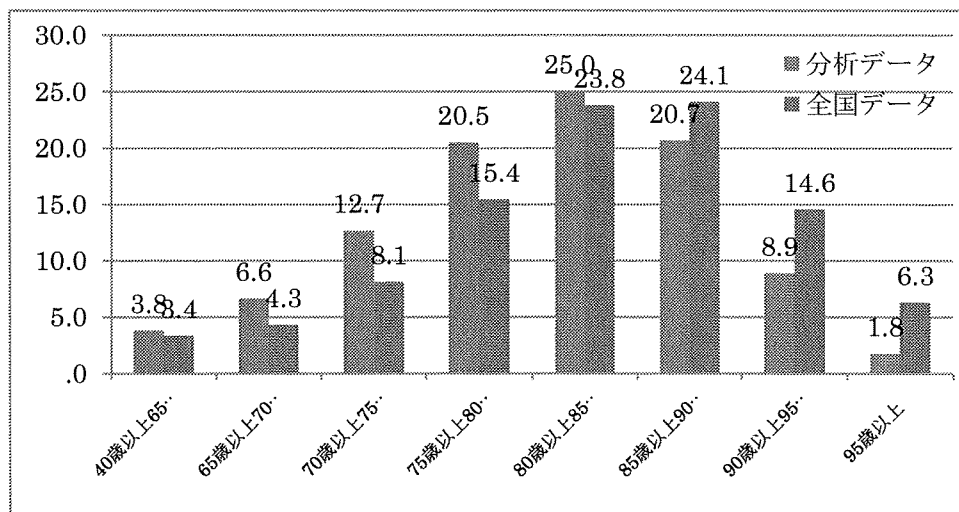


図 1-1 分析データと全国データにおける年齢階層の構成割合

3) 性別年齢階層

男女別年齢階層の構成割合について、全国データおよび分析データについて比較を行ったところ、男女ともに全国データのほうが年齢階層が高い傾向があり、それは男性より女性のほうに顕著にみられた。

表 1-3 分析データと全国データにおける男性の年齢階層別構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
40歳以上 65歳未満	1375	6.1	73.3	6.4
65歳以上 70歳未満	2188	9.7	89.4	7.8
70歳以上 75歳未満	3614	16.1	143.8	12.5
75歳以上 80歳未満	4472	19.9	220.1	19.1
80歳以上 85歳未満	4896	21.8	270.5	23.5
85歳以上 90歳未満	3970	17.7	205.6	17.9
90歳以上 95歳未満	1669	7.4	108.6	9.4
95歳以上	285	1.3	38.3	3.3
合計	22469	100.0	1 149.6	100.0

※全国データのN数の単位は千人

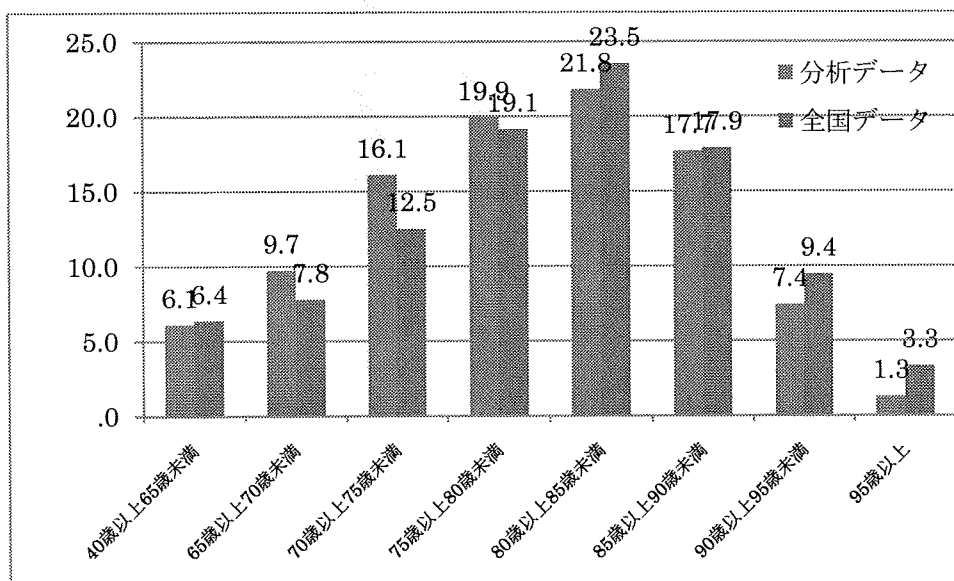


図 1-2 分析データと全国データにおける男性の年齢階層別構成割合

表 1-4 分析データと全国データにおける女性の年齢階層別構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
40歳以上 65歳未満	1394	2.8	60.3	2.1
65歳以上 70歳未満	2643	5.3	82.3	2.9
70歳以上 75歳未満	5598	11.2	177.7	6.3
75歳以上 80歳未満	10424	20.8	391.7	13.9
80歳以上 85歳未満	13302	26.5	671.9	23.9
85歳以上 90歳未満	11043	22.0	749.2	26.6
90歳以上 95歳未満	4790	9.5	468.5	16.7
95歳以上	997	2.0	212.3	7.5
合計	50191	100.0	2 813.8	100.0

※全国データの N 数の単位は千人

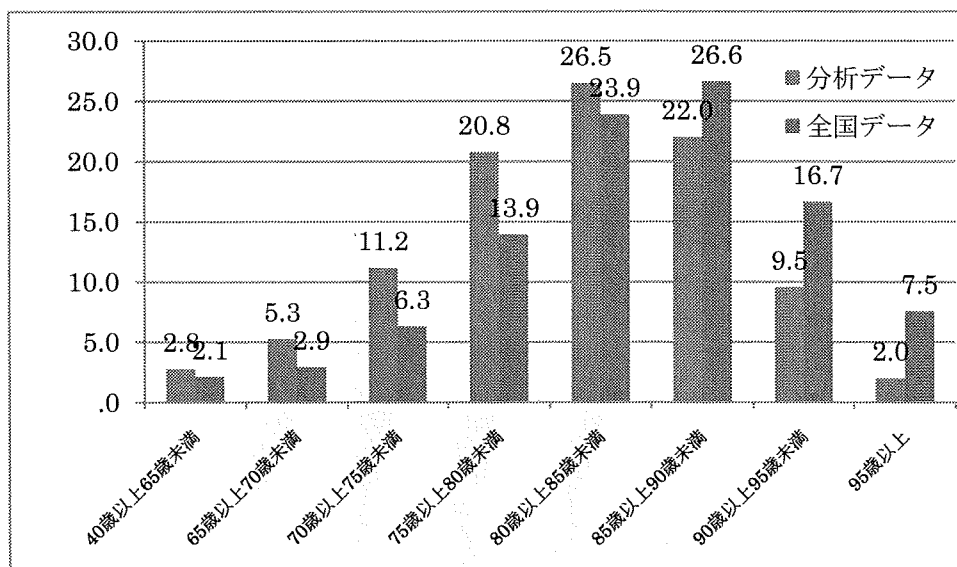


図 1-3 分析データと全国データにおける女性の年齢階層別構成割合

2. 要介護度（二次判定）

1) 要介護度

要介護度について、分析データにおいて一番多かったのは、要介護1で34.5%であった。続いて、要支援が22.3%、要介護2が20.8%となっている。

全国データにおいては、一番多いのは要支援20.9%、続いて要介護2で19.1%、要介護1で17.3%であった。分析データは、要介護4や要介護5といった要介護度が高い集団において経年的変化の観測期間を維持できなかったためと推察された。

表 1-5 分析データと全国データにおける要介護度構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
非該当	544	.7	-	-
要支援	16175	22.3	827.9	20.9
要介護1	25094	34.5	685.0	17.3
要介護2	15080	20.8	757.0	19.1
要介護3	8765	12.1	669.5	16.9
要介護4	5241	7.2	563.9	14.2
要介護5	1761	2.4	460.0	11.6
合計	72660	100.0	3 963.4	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1要支援2を足して、要支援者としている。

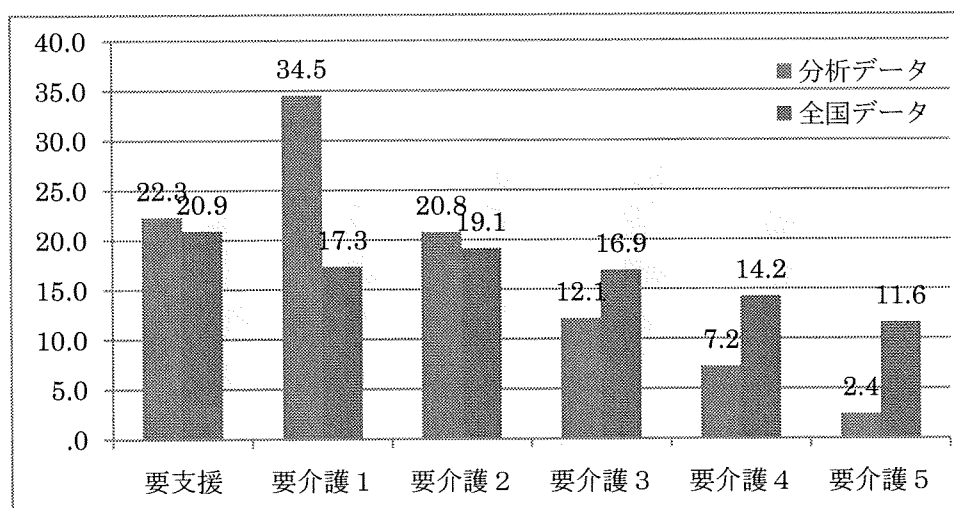


図 1-4 分析データと全国データにおける要介護度構成割合

2) 性別要介護度

男女別に要介護度について分析を行ったが、分析データが全国データより、要介護4や要介護5といった要介護度が高い集団が少なく、要介護1が多い傾向は男女ともに同じであった。

表 1-6 男性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
非該当	104	.5	-	-
要支援	3995	17.8	200.2	17.4
要介護1	7339	32.7	195.1	17.0
要介護2	5332	23.7	249.4	21.7
要介護3	3166	14.1	218.8	19.0
要介護4	1896	8.4	168.1	14.6
要介護5	637	2.8	118.1	10.3
合計	22469	100.0	1 149.6	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1要支援2を足して、要支援者としている。

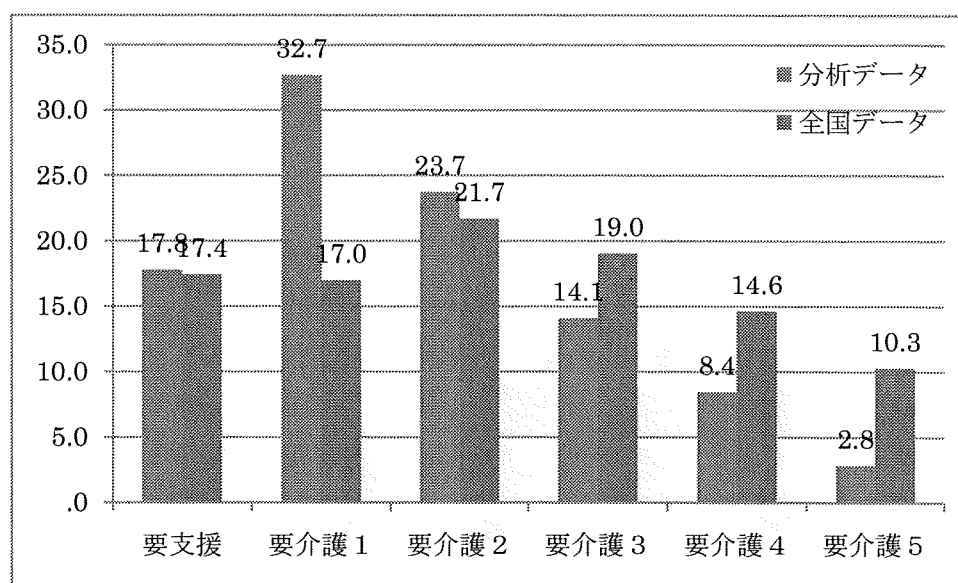


図 1-5 男性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合

表 1-7 女性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合

	分析データ		全国データ	
	N	%	N	%
非該当	440	.9	-	-
要支援	12180	24.3	627.7	22.3
要介護1	17755	35.4	489.9	17.4
要介護2	9748	19.4	507.6	18.0
要介護3	5599	11.2	450.8	16.0
要介護4	3345	6.7	395.8	14.1
要介護5	1124	2.2	342.0	12.2
合計	50191	100.0	2 813.8	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1 要支援2を足して、要支援者としている。

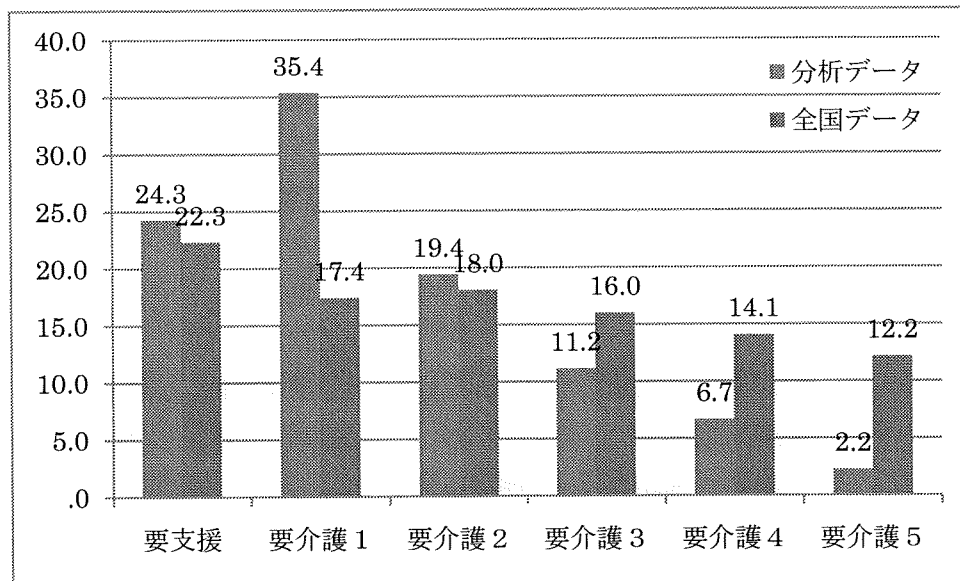


図 1-6 女性における分析データと全国データにおける要介護度構成割合

3) 年齢階層別要介護

年齢階層別に分析データと全国データにおける要介護度の構成割合を見たところ、分析データにおいては、要支援の割合に着目すると80～84歳が26.2%と一番高く、続いて75～79歳が26.0%と多かった。これらの年齢階層をピークとして若年になるほど、あるいは高齢になるほど、重度の割合が多くなる傾向が示された。これらの傾向は、全国データについても同様であった。

表 1-8 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合

	40～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
非該当	4	0.1	19	0.4	48	0.5	132	0.9	182	1.0	127	0.8	29	0.4	3	0.2
要支援	232	8.4	835	17.3	2052	22.3	3867	26.0	4767	26.2	3260	21.7	1050	16.3	112	8.7
要介護1	793	28.6	1712	35.4	3192	34.7	5306	35.6	6420	35.3	5235	34.9	2094	32.4	342	26.7
要介護2	798	28.8	1095	22.7	1958	21.3	2826	19.0	3433	18.9	3121	20.8	1539	23.8	310	24.2
要介護3	507	18.3	670	13.9	1079	11.7	1535	10.3	1914	10.5	1847	12.3	941	14.6	272	21.2
要介護4	328	11.8	366	7.6	657	7.1	897	6.0	1110	6.1	1070	7.1	619	9.6	194	15.1
要介護5	107	3.9	134	2.8	226	2.5	333	2.2	372	2.0	353	2.4	187	2.9	49	3.8
	2769	100.0	4831	100.0	9212	100.0	14896	100.0	18198	100.0	15013	100.0	6459	100.0	1282	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1 要支援2を足して、要支援者としている。

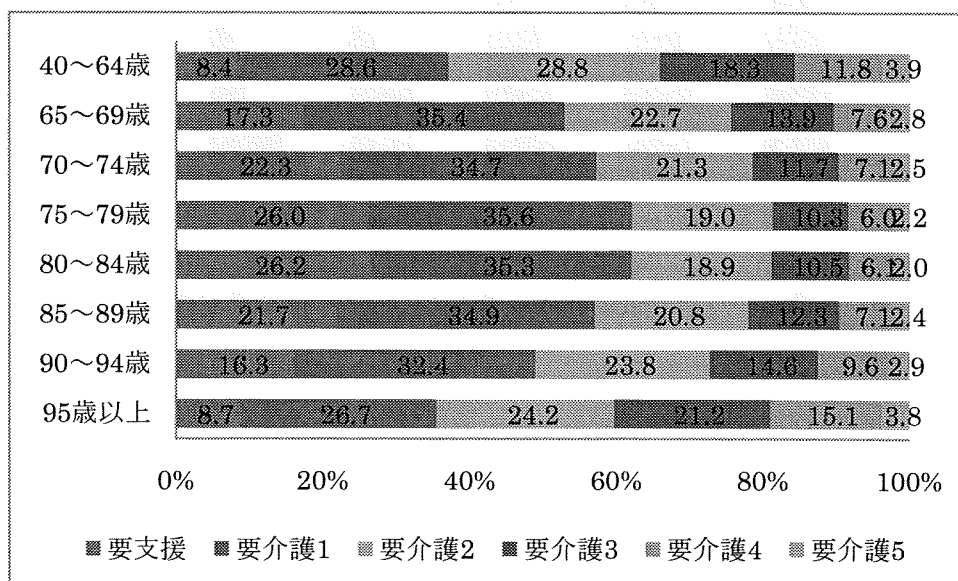


図 1-7 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合

表 1-9 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合

	40～64 歳		65～69 歳		70～74 歳		75～79 歳		80～84 歳		85～89 歳		90～94 歳		95 歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
非該当	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
要支援	21.5	16.1	35.7	20.8	74.7	23.2	157.6	25.8	242.8	25.8	201.4	21.1	78.3	13.6	15.8	6.3
要介護 1	19.5	14.6	27.1	15.8	54.1	16.8	110.5	18.1	179.5	19.0	177.9	18.6	90.6	15.7	25.9	10.3
要介護 2	33.0	24.7	37.8	22.0	65.9	20.5	115.1	18.8	171.3	18.2	179.7	18.8	111.8	19.4	42.4	16.9
要介護 3	25.3	18.9	30.4	17.7	53.4	16.6	94.7	15.5	143.6	15.2	158.6	16.6	110.8	19.2	52.6	21.0
要介護 4	17.9	13.4	22.2	12.9	40.9	12.7	74.5	12.2	113.9	12.1	131.4	13.8	102.4	17.7	60.8	24.3
要介護 5	16.5	12.4	18.5	10.8	32.5	10.1	59.3	9.7	91.3	9.7	105.8	11.1	83.2	14.4	53.0	21.2
	133.6	100.0	171.7	100.0	321.5	100.0	611.8	100.0	942.4	100.0	954.8	100.0	577.2	100.0	250.5	100.0

※全国データの N 数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援 1 要支援 2 を足して、要支援者としている。

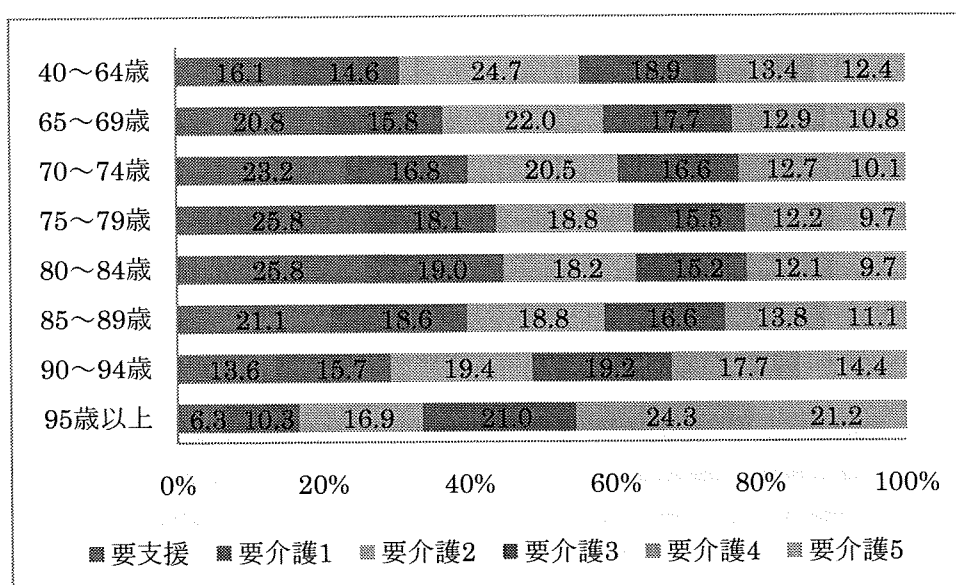


図 1-8 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合

4) 性別年齢階層別要介護

① 分析データ（男性）

男女別に年齢階層別に分析データと全国データにおける要介護度の構成割合を見たところ、男性の分析データにおいては、要支援の割合に着目すると85～89歳が21.9%と一番高く、続いて85～89歳が21.0%と多かった。これらの年齢階層をピークとして若年になるほど、あるいは高齢になるほど、重度の割合が多くなる傾向は同様であったが、90～94歳について要支援が20.3%と多いのが特徴であった。

また、要支援高齢者については分析データ全体と比較すると、やや少ない傾向にあり、女性に軽度高齢者群がより多い傾向が示された。

表 1-10 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）

	40～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
非該当	1	0.1	3	0.1	9	0.2	23	0.5	38	0.8	27	0.7	2	0.1	1	0.4
要支援	87	6.3	258	11.8	535	14.8	851	19.0	1028	21.0	871	21.9	339	20.3	26	9.1
要介護1	348	25.3	686	31.4	1146	31.7	1476	33.0	1635	33.4	1367	34.4	583	34.9	98	34.4
要介護2	412	30.0	562	25.7	913	25.3	1039	23.2	1073	21.9	894	22.5	364	21.8	75	26.3
要介護3	284	20.7	388	17.7	566	15.7	600	13.4	633	12.9	434	10.9	219	13.1	42	14.7
要介護4	192	14.0	217	9.9	340	9.4	353	7.9	365	7.5	280	7.1	116	7.0	33	11.6
要介護5	51	3.7	74	3.4	105	2.9	130	2.9	124	2.5	97	2.4	46	2.8	10	3.5
合計	1375	100.0	2188	100.0	3614	100.0	4472	100.0	4896	100.0	3970	100.0	1669	100.0	285	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1要支援2を足して、要支援者としている。

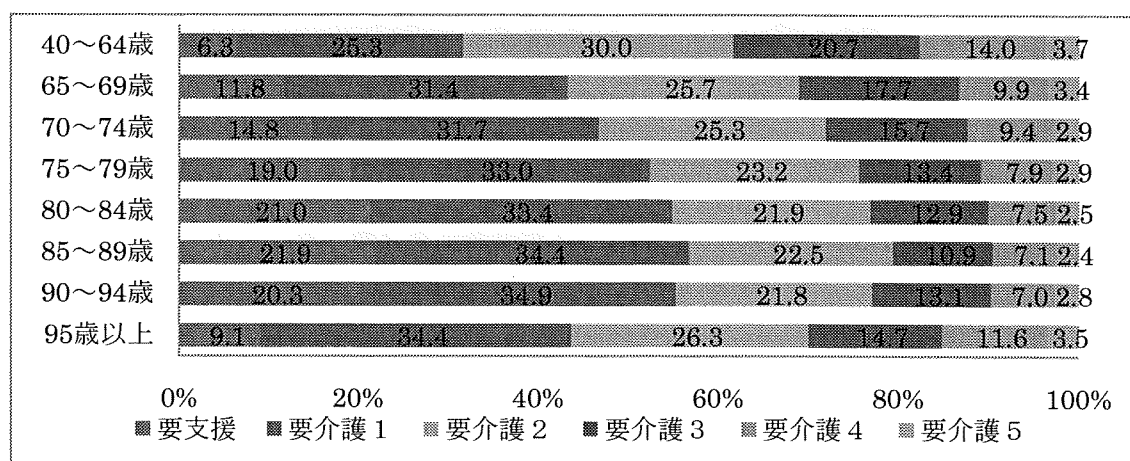


図 1-9 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）

② 分析データ（女性）

女性の分析データにおいては、要支援の割合に着目すると一番多い層が75～79歳で28.9%であった。続いて、80～84歳が28.1%、70～74歳が27.1%と示された。これらの群において特に要支援高齢者が男性よりも多く、要介護1を含めると、75～79歳においては65.6%と7割弱を占めていた。

表 1-11 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）

	40～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
非該当	3	0.2	16	0.6	39	0.7	109	1.0	144	1.1	100	0.9	27	0.6	2	0.2
要支援	145	10.4	577	21.8	1517	27.1	3016	28.9	3739	28.1	2389	21.6	711	14.8	86	8.6
要介護1	445	31.9	1026	38.8	2046	36.5	3830	36.7	4785	36.0	3868	35.0	1511	31.5	244	24.5
要介護2	386	27.7	533	20.2	1045	18.7	1787	17.1	2360	17.7	2227	20.2	1175	24.5	235	23.6
要介護3	223	16.0	282	10.7	513	9.2	935	9.0	1281	9.6	1413	12.8	722	15.1	230	23.1
要介護4	136	9.8	149	5.6	317	5.7	544	5.2	745	5.6	790	7.2	503	10.5	161	16.1
要介護5	56	4.0	60	2.3	121	2.2	203	1.9	248	1.9	256	2.3	141	2.9	39	3.9
合計	1394	100.0	2643	100.0	5598	100.0	10424	100.0	13302	100.0	11043	100.0	4790	100.0	997	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1要支援2を足して、要支援者としている。

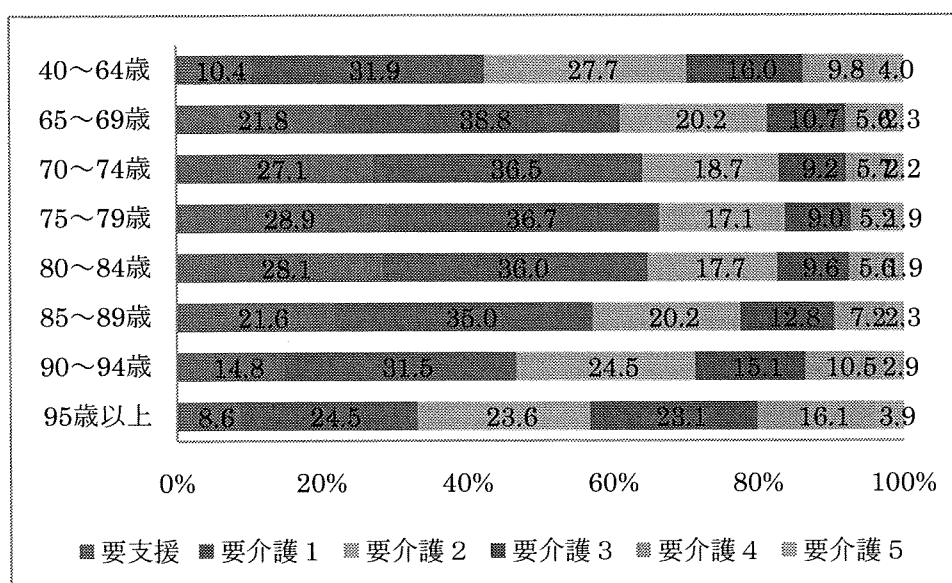


図 1-10 分析データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）

③ 全国データ（男性）

男性の全国データにおいては、要支援高齢者が一番多い階層が80～84歳19.0%、つづいて85～90歳が18.9%であった。95歳以上を除き、要支援高齢者が占める割合は、19～15%の間を示しており、年齢階層により要介護度の分布に大きな差が見られないのが特徴であった。これは要介護5においても9.7～12.0%に推移しており、重度要介護高齢者においても同様の傾向が示されていた。

表 1-12 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）

	40～64歳		65～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
要支援	11.2	15.3	15.6	17.4	24.3	16.9	38.3	17.4	51.4	19.0	38.8	18.9	16.7	15.4	4.0	10.4
要介護1	10.6	14.5	13.6	15.2	22.2	15.4	36.6	16.6	49.1	18.2	38.5	18.7	19.0	17.5	5.4	14.1
要介護2	18.4	25.1	20.6	23.0	32.5	22.6	47.3	21.5	56.3	20.8	42.9	20.9	23.2	21.4	8.2	21.4
要介護3	14.6	19.9	17.4	19.5	27.9	19.4	42.0	19.1	49.2	18.2	37.7	18.3	21.5	19.8	8.5	22.2
要介護4	9.9	13.5	12.6	14.1	21.4	14.9	32.5	14.8	38.3	14.2	28.6	13.9	17.3	15.9	7.5	19.6
要介護5	8.6	11.7	9.6	10.7	15.5	10.8	23.4	10.6	26.3	9.7	19.2	9.3	11.0	10.1	4.6	12.0
合計	73.3	100.0	89.4	100.0	143.8	100.0	220.1	100.0	270.5	100.0	205.6	100.0	108.6	100.0	38.3	100.0

※全国データのN数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援1 要支援2を足して、要支援者としている。

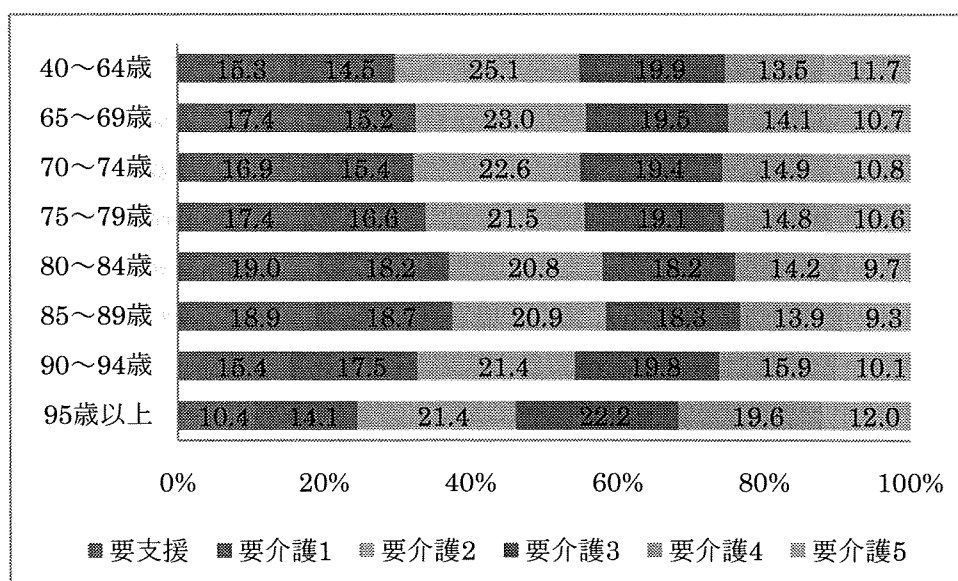


図 1-11 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（男性）

④ 全国データ（女性）

女性の全国データにおいては、要支援高齢者が一番多い年齢階層は 75～79 歳であり 30.5%と 3 割強が占めていた。続いて、80～84 歳 28.5%、70～74 歳 28.4%と示され、分析データと同様の年齢階層においてで要支援高齢者が多い傾向が示されていた。

しかし、95 歳以上については、要支援高齢者が 5.6%、要介護 5 が 22.8%とこれまでのデータのいずれよりも要支援が少なく、要介護 5 が多い傾向が占められ、顕著に要介護が高い傾向を示していた。

表 1-13 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）

	40～64 歳		65～69 歳		70～74 歳		75～79 歳		80～84 歳		85～89 歳		90～94 歳		95 歳以上	
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%
要支援	10.2	16.9	20.1	24.4	50.5	28.4	119.4	30.5	191.4	28.5	162.5	21.7	61.7	13.2	11.9	5.6
要介護 1	8.9	14.8	13.5	16.4	31.8	17.9	73.9	18.9	130.4	19.4	139.4	18.6	71.6	15.3	20.5	9.7
要介護 2	14.6	24.2	17.2	20.9	33.3	18.7	67.9	17.3	115.0	17.1	136.8	18.3	88.6	18.9	34.2	16.1
要介護 3	10.7	17.7	13.0	15.8	25.5	14.4	52.7	13.5	94.4	14.0	121.0	16.2	89.3	19.1	44.1	20.8
要介護 4	7.9	13.1	9.6	11.7	19.5	11.0	42.0	10.7	75.6	11.3	102.8	13.7	85.1	18.2	53.2	25.1
要介護 5	7.9	13.1	8.9	10.8	17.0	9.6	35.9	9.2	65.0	9.7	86.6	11.6	72.2	15.4	48.4	22.8
計	60.3	100.0	82.3	100.0	177.7	100.0	391.7	100.0	671.9	100.0	749.2	100.0	468.5	100.0	212.3	100.0

※全国データの N 数の単位は千人、また全国データにおいては介護サービス受給者のため、非該当者はなし、要支援 1 要支援 2 を足して、要支援者としている。

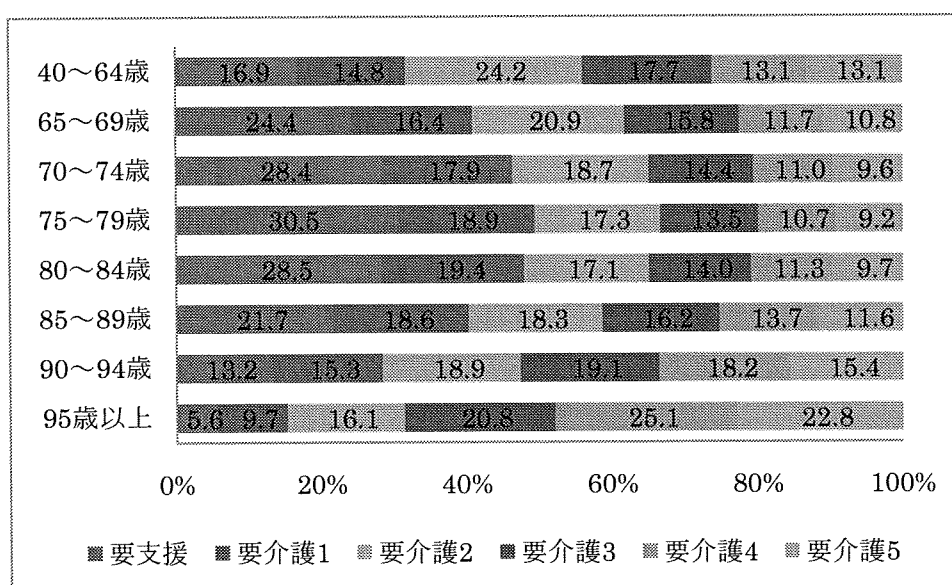


図 1-12 全国データにおける年齢階層別要介護の構成割合（女性）

3. まとめ

本章においては、研究報告書（1章から7章）における分析データの傾向を全国データとの比較によって明らかにした。

これらの結果より、分析データにおいては全国データと比較し、性別の構成割合に差異は見られなかったものの、分析データのほうが年齢階層が低い集団が多く、それは女性に顕著に表れていた。

また要介護度については、分析データにおいては全国データと比較し、要介護1が顕著に多く、その一方で要介護4・5といった要介護度が高い集団が少なかった。さらに年齢階層別の要介護度の構成割合については大差は見られなかったが、男女別にみると女性に軽度高齢者群がより多い傾向が示され、これらの集団が分析データにより多く占めている傾向が明らかになった。

第2章 経年的観察を行った要介護高齢者の性別・年齢別にみた心身状態に関する基礎的分析結果

本章においては、分析データとなった経年的観察を行った要介護高齢者の性別・年齢別・状態別にみた健康状態の特徴について分析を行った。

1. 要介護認定等基準時間

1) 調査対象者全体

調査対象の要介護認定基準時間は、1回目 49.03 分から、2回目の 49.10 分と 0.7 分長くなってはいたが、ほとんど変化はなく、統計的有意差も見られなかった。しかし、2回から3回目は 54.09 分と約 5 分増加し、その変化が大きく、同様に 4 回目も 59.42 分となり、3回目に比較すると約 5 分は長くなっていることから、認定回数が増加するにしたがって、基準時間が長くなる傾向とその変化時間も長くなる傾向があった。

表 2-1 要介護認定等基準時間の経年的変化

認定回数	サンプル数	平均値	標準偏差	変動係数	最小値	最大値
1回目	72660	49.03	25.78	0.53	22	178
2回目	72660	49.10	24.66	0.50	22	171
3回目	72660	54.09	28.03	0.52	22	177
4回目	72660	59.42	30.88	0.52	22	172

**P<0.01 *P<0.05

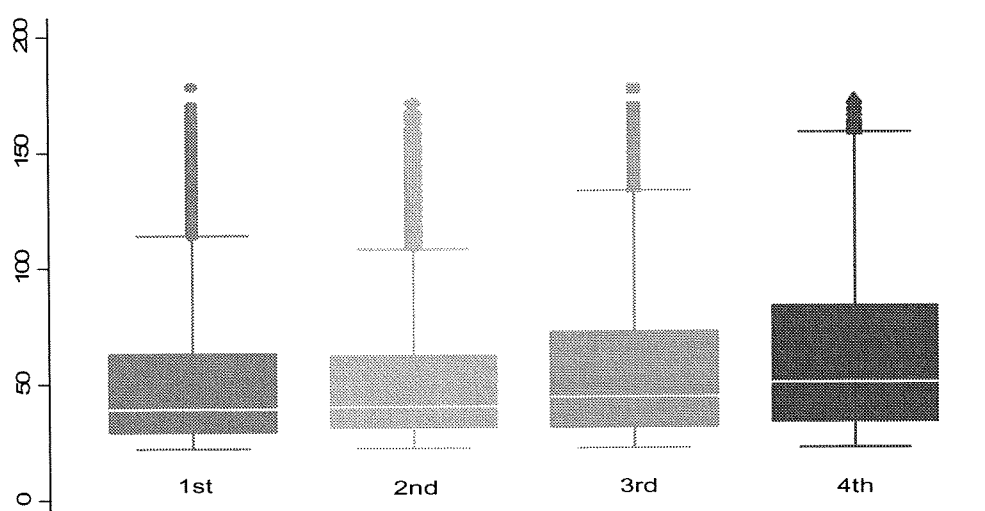


図 2-1 要介護認定等基準時間の推移 (ボックスチャート)

2) 男女別

調査対象の男女別に要介護認定基準時間を分析した結果は、男性と女性では、男性のほうが要介護認定基準時間は、すべての認定時点において、男性のほうが女性よりも長かった。男女別の経年的変化については、男性1回目 53.27分から、2回目の 52.83分とわずかではあるが、0.44分だけ時間が短くなっていた。しかし、女性は、0.3分長くなっており、男女の経年的変化の傾向には違いがあった。

2回目から3回目の変化は、男性は5.34分増加し 58.17分、女性は、4.83分増加し 52.26分となり、その変化は大きくなっていた。同様に4回目も男性 64.31分、女性 57.23分となり、3回目に比較すると男性 6.14分、女性 4.97分と長くなっていることから、認定回数が2回目以降は、男女共に基準時間が長くなる傾向とその変化する増加時間も長くなる傾向があった。

表 2-2 男女別の要介護認定等基準時間の経年的変化

認定回数	男性(N=22,469)	女性(N=50,191)	男女差
1回目	53.27	47.13	**
	*	**	
2回目	52.83	47.43	**
	**	**	
3回目	58.17	52.26	**
	**	**	
4回目	64.31	57.23	**

**P<0.01 *P<0.05

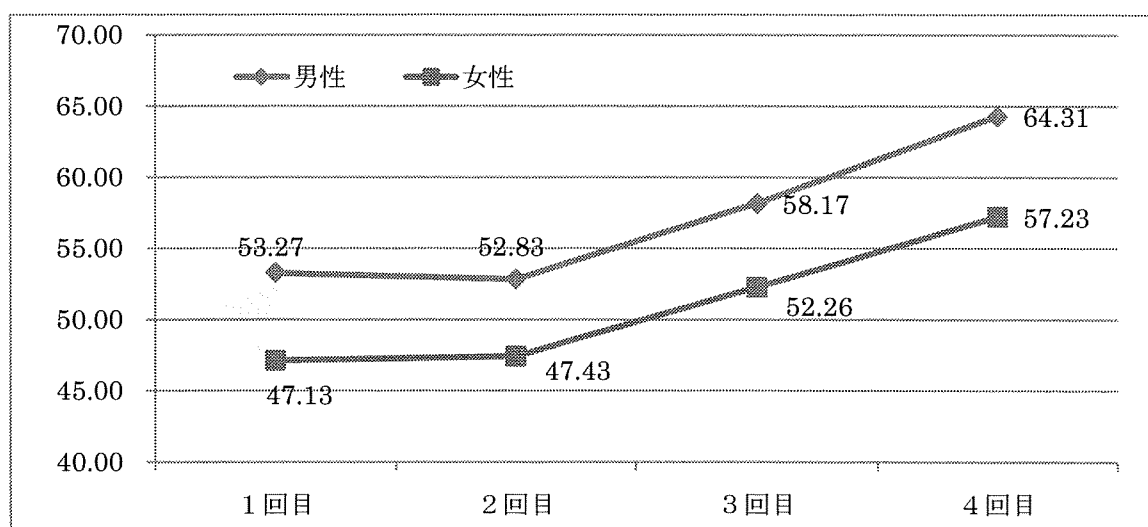


図 2-2 男女別の要介護認定等基準時間の経年的な変化

3) 年齢階層別

年齢階層別に要介護高齢者における要介護認定基準時間を比較した結果、65歳未満、65歳以上75歳未満については、1回目から2回目にかけて要介護認定基準時間が有意に低下した。しかし、それ以上の年齢階層については、95歳以上を除き有意に上昇していた。2回目以降の認定基準時間については、いずれも回を重ねるごとに長くなる傾向が示された。

表 2-3 年齢階層別の要介護認定等基準時間の経年的変化

認定回数	65歳未満 (N=2,769)	65歳以上75歳未満 (N=14,043)	75歳以上85歳未満 (N=33,094)	85歳以上95歳未満 (N=21,472)	95歳以上 (N=1,282)
1回目	59.33	50.32	46.50	50.04	60.98
2回目	58.00	49.89	46.75	50.36	60.60
3回目	60.83	53.78	51.52	56.62	66.80
4回目	63.91	57.87	56.69	63.10	75.54

**P<0.01 *P<0.05

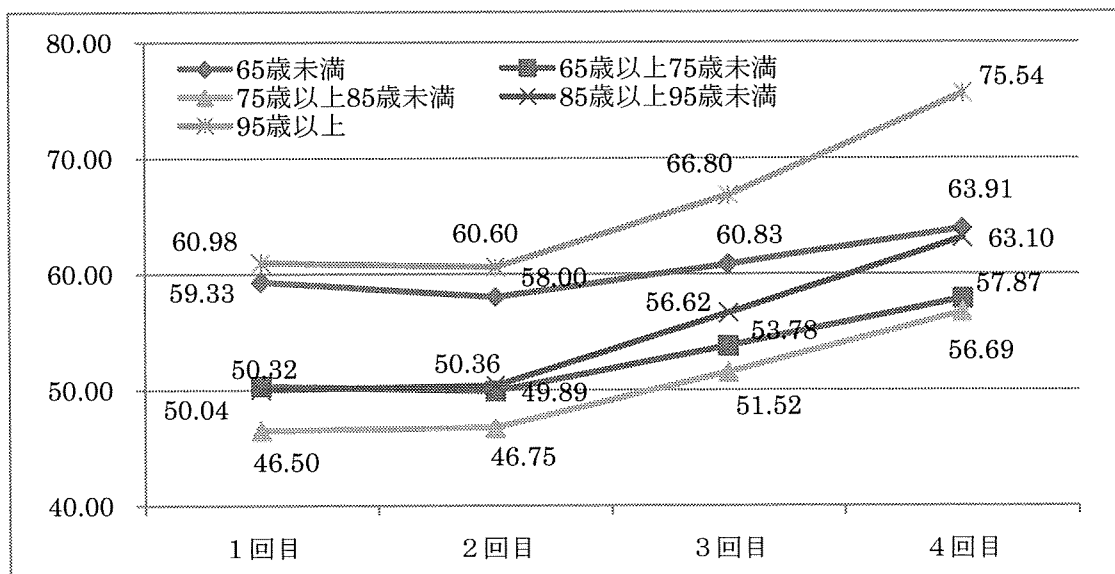


図 2-3 年齢階層別の要介護認定等基準時間の経年的な変化

4) 男女別年齢階層別

① 男性

男女別年齢階層別に要介護高齢者における要介護認定基準時間を比較した結果、男性においては年齢階層別にみると、1回目から2回目にかけては、65歳未満では、1回目 62.75点から2回目 60.38点、65歳以上75歳未満では56.31分から55.29分と有意に時間が低下していたが、75歳以上については、有意差はなかった。

また、2回目以降については、いずれの年齢階層についても認定回数が増えるにしたがって、有意に時間は増加していた。

表 2-4 男性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的変化

認定回数	65歳未満 (N=1,375)	65歳以上75歳 未満(N=5,802)	75歳以上85歳 未満(N=9,368)	85歳以上95歳 未満(N=5,639)	95歳以上 (N=285)
1回目	62.75	56.31	51.86	49.96	57.53
2回目	60.38	55.29	51.77	50.03	56.67
3回目	63.16	59.69	57.28	56.65	62.31
4回目	66.18	64.67	63.82	63.93	71.74

**P<0.01 *P<0.05

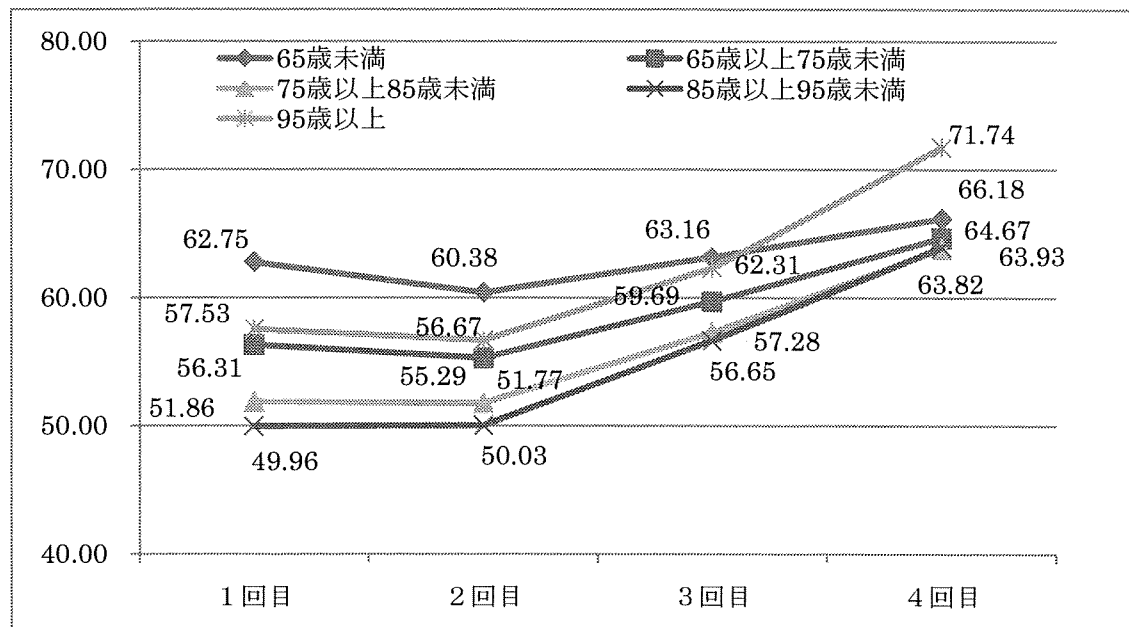


図 2-4 男性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的な変化

② 女性

女性においては年齢階層別では、1回目から2回目にかけては、75歳以上85歳未満では、1回目44.38点から2回目44.77点、85歳以上95歳未満では50.06分から50.47分と有意に時間が長くなっていったが、その他の群では有意差はなかった。

また、2回目以降については、いずれの年齢階層についても回数が増えるごとに有意に時間が増加していた。

表 2-5 女性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的変化

認定回数	65歳未満 (N=1,394)	65歳以上75歳 未満(N=8,241)	75歳以上85歳 未満(N=23,726)	85歳以上95歳 未満(N=15,833)	95歳以上 (N=997)
1回目	55.96	46.10	44.38	50.06	61.96
2回目	55.66	46.10	44.77	50.47	61.73
3回目	58.53	49.61	49.25	56.62	68.08
4回目	61.67	53.08	53.88	62.81	76.63

**P<0.01 *P<0.05

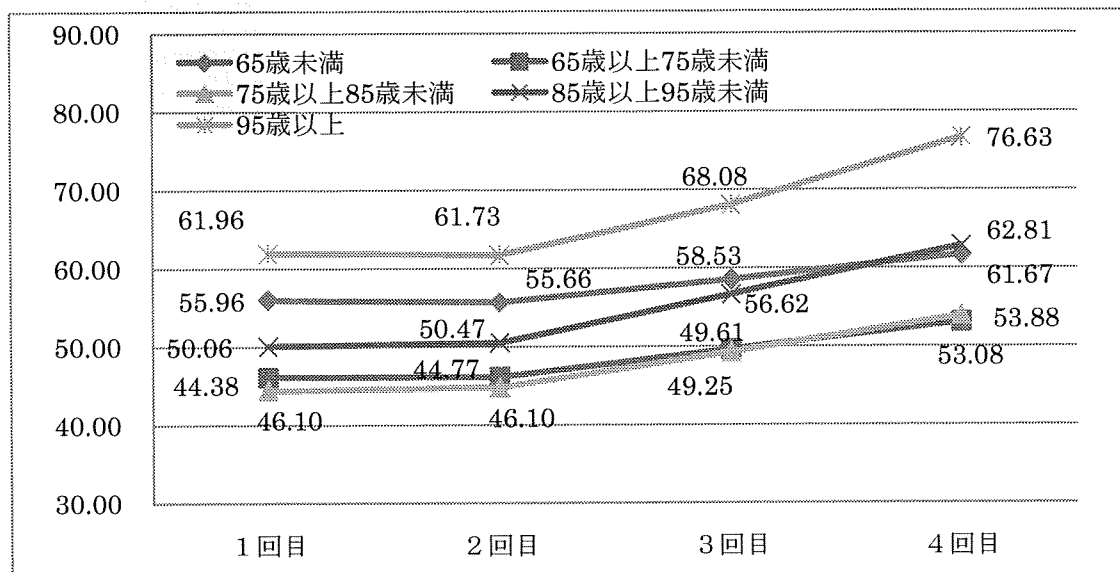


図 2-5 女性の年齢階層別要介護認定等基準時間の経年的な変化

2. 第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化

1) 調査対象者全体の経年的変化

要介護高齢者における第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点は、1回目 84.10点、2回目 82.43点、3回目 80.52点、4回目 78.18点と回数を経るごとに得点が有意に低下する傾向があり、いわゆる状態が悪くなる傾向が示されたが、変動係数も回数が増加するほど大きくなっていった。

表 2-6 第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	サンプル数	平均値	標準偏差	変動係数	最小値	最大値
1回目	72660	84.10	19.42	0.23	0	100
2回目	72660	82.43	20.20	0.25	0	100
3回目	72660	80.52	21.48	0.27	0	100
4回目	72660	78.18	23.24	0.30	0	100

**P<0.01 *P<0.05

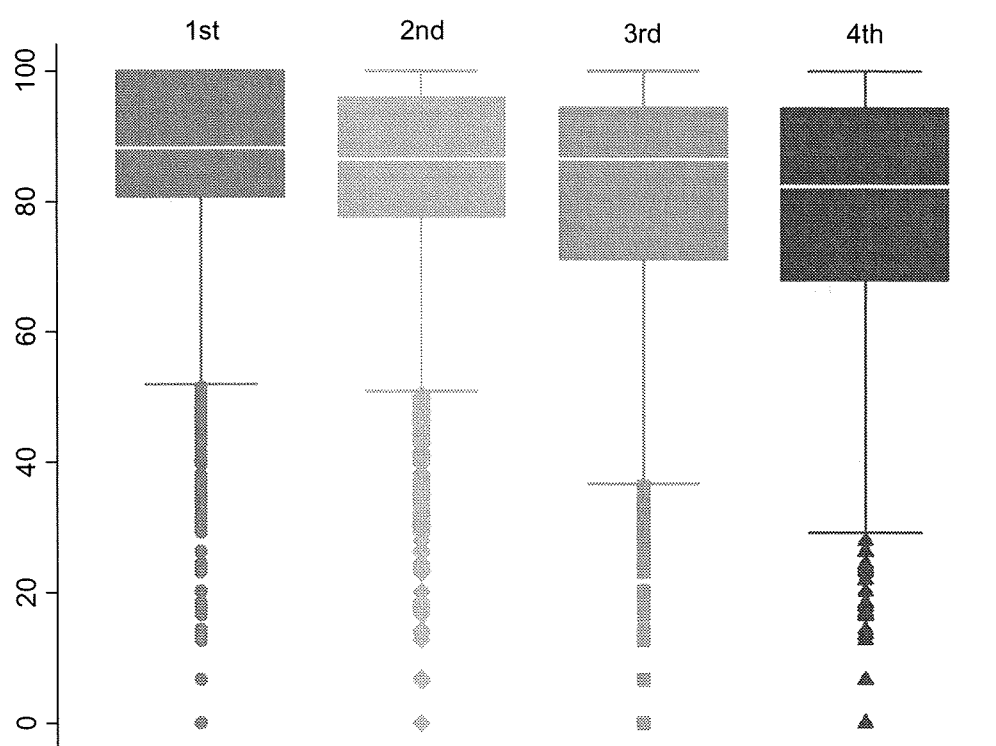


図 2-6 第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）

2) 男女別

男女別に要介護高齢者における第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点を比較した結果、すべての年齢階層において1回目から4回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

また、すべての認定回数時点で女性の得点が男性の得点よりも有意に高かった。

表 2-7 男女別第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	男性(N=22,469)	女性(N=50,191)	男女差
1回目	83.20	84.50	**
2回目	81.50	82.85	**
3回目	79.58	80.94	**
4回目	76.88	78.75	**

**P<0.01 *P<0.05

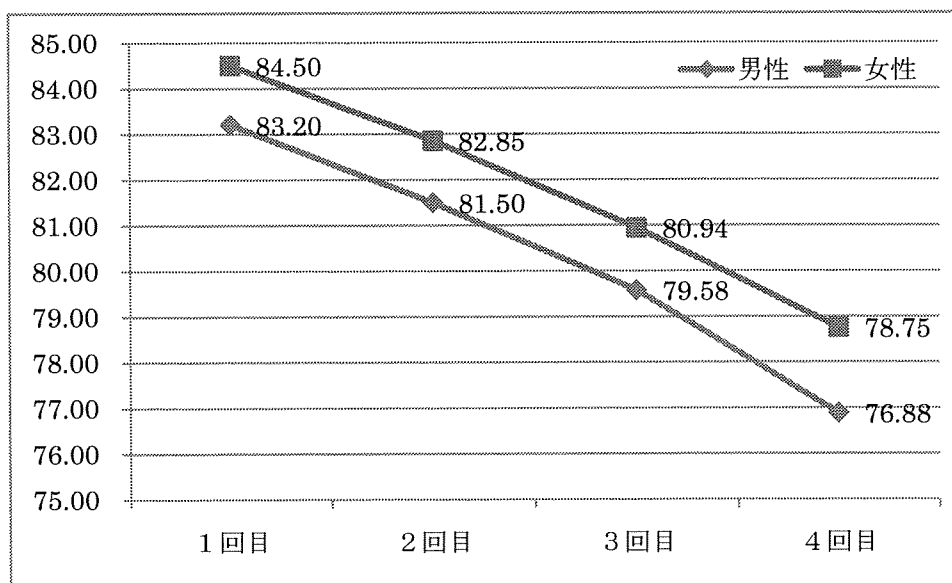


図 2-7 男女別の第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点の経年的変化